

1. はじめに：ロシア政治を考える視点¹

1. 「民主主義」概念と地域研究

1.1. 「民主主義」概念の多様性

ロシア政治の定番的教科書²における Zvi Gitelman の「民主主義」定義³

- ① Larry Diamond, Juan Linz, Seymour Martin Lipset の共著⁴におけるモデル
- ② Robert A. Dahl の Polyarchy⁵
- ③ Samuel Huntington のモデル⁶

：「民主主義」の概念のあまりの多様性に終止符を打つために Dahl が提示したはずの Polyarchy も、結局
：のところ、「民主主義」についての新しい概念を一つ増やしただけに過ぎない。

1.2. 「民主主義」を論ずるときの暗黙の基準あるいはモデルの存在

「民主主義」の暗黙の基準あるいはモデル

＝米国あるいは西欧の政治システムのいずれか、またはそれらすべてか、あるいは折衷型

↓

こうした発想の落とし穴

- ① 米国はその歴史的形成過程からすると非常に特殊な国家
- ② 欧州⁷は世界のごく一部
欧州の面積＝約 5,950,758km²＝世界の 4.37%⁸
欧州の人口＝約 589,612,000 人＝世界の 8.73%
- ③ 西欧⁹（面積 3,641,010km²＝世界の 2.67%、人口 395,675,000 人＝世界の 5.86%）は文化的にも特殊
宗教的に見ればキリスト教世界、しかもその半分＝正教会を除くカトリックとプロテスタントの世界

：西欧世界は、イスラム世界やアジアと異なるだけでなく、キリスト教世界の半分ということは重要。つ
：まり、宗教改革もルネッサンスも、世界の一部で起こったことに過ぎず、同じキリスト教世界でも正教
：世界では起きていない。欧州とりわけ西欧の歴史も決して普遍的なものではなく特殊なもの。

↓

：全世界の一部に過ぎない地域の、固有の歴史に根ざしている政治システムを「民主主義」を考える場合
：の暗黙の基準ないしモデルとすることには無理がある。

1.3. 「民主主義」の序列化を前提とした「民主化」論

「民主化」を論ずるときの暗黙の目標ないし到達点

¹ ここでの議論は、上野俊彦「ロシア：『民主化』論と地域研究」『アクセス地域研究Ⅰ』（日本経済評論社、2004）にもとづく。

² White, Stephen, Zvi Gitelman and Richard Sakwa (eds.), *Developments in Russian Politics 6*, Palgrave, 2005, pp. 242-243.

³ Zvi Gitelman は、第 5 版の *Developments in Russian Politics 5* では Lisa Anderson のモデル（Anderson, Lisa (ed.), *Transitions to Democracy*, Columbia University Press, 1999）を含む 4 つのモデルをあげていたが、第 6 版の *Developments in Russian Politics 6* では 3 つのモデルをあげるとどまっている。

⁴ Diamond, Larry, Linz, Juan, and Lipset, Seymour Martin (eds.), *Politics in Developing Countries: comparing experiences with democracy*, Lynne Rienner, 1988.

⁵ Dahl, Robert, *Polyarchy: Participation and opposition*. Yale University Press, 1971.

⁶ Huntington Samuel, *The Third Wave: democratization in the late twentieth century*. University of Oklahoma Press, 1991.

⁷ ここでは、欧州とは、アイスランドなどの島嶼を含み、ロシア連邦を除く地域を指す。以下同様。

⁸ 以下、面積と人口は、総務省統計局ホームページ（<http://www.stat.go.jp/data/sekai/02.htm#h2-05> [accessed on 2011/10/03]）から引用。

⁹ ここでは、西欧とは、アイスランド、アイルランド、アンドラ、イギリス、イタリア、オーストリア、オランダ、ギリシア、サンマリノ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、バチカン、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル、マルタ、モナコ、リヒテンシュタイン、ルクセンブルクの各国およびジブラルタル、スヴァールバル諸島、ヤンマイエン島、チャネル諸島、フェロー諸島、マン島の各地域を含む地域を指す。

＝「民主主義」の基準ないしモデルとして想定されている欧米の政治システム



「民主主義」の先進国、発展途上国、後進国という序列化

①「民主主義」の発展途上国は、救済あるいは支援の対象

②「民主主義」の後進国は、非難や排除対象

セルビア、アフガニスタン、イラク、北朝鮮など

これらの国々は空爆されて当然、そこには抹殺されるべき政治指導者がいる

各国の「民主化」度を比較する際の基準としてしばしば用いられているフリーダムハウスの、いわば「民主化ポイント制度」は、結局、そうした「民主主義」を序列化する発想に基づいている。EUあるいはNATOの東方拡大の際に問題となる民主化指標の適用も同様

1.4. 「民主化」論の新しい地平

「民主主義」あるいは「民主化」を議論するとき、基準やモデルを想定することをやめない限り、あるいは「民主主義について、より妥当性のある概念を構築しようという観念」から脱却しない限り、「民主主義」の序列化が行われる

↓発想の転換

「民主主義」に暗黙の基準やモデルを想定することを否定
 →100人の論者がいれば100の「民主主義」概念がありうることを前提とする
 →100の社会があれば100のシステムがありうることを前提とする



一般理論の構築ではなく個々の社会は異なる歴史と文化を持ち、また多様であり、異なる社会のあいだにはある点があてはまっている、ある点は似ていないという相互の相対的距離があるだけで、単一の到達点を持つ単純な発展段階を進むわけではない



研究者は、「民主主義」の一般理論を構築しようとするのではなく、ある地域を認識しようとする、つまり、「ある社会のある制度（分野、機能、過程、アクター）は以前はこうだったが現在はこうなっているから、この社会はこのように変化した」ということをまず明らかにするように努めるべき。この「変化」を抽出するためのツールが、さまざまな理論や概念であり、必要なのはそうした認識のツールとしての概念や理論であって、基準やモデルではない。

2. ロシア「民主化」論の多様性

多様な「民主主義」の概念（基準ないしモデル）でロシア政治を分析→ロシア政治に対する評価も多様

M. Steven Fish は、それぞれ異なる「民主主義」概念に基づく3つのグループを列挙し、ロシア政治に3つの異なる評価があると指摘¹⁰。

①選挙を重視するシュムペーター主義者は「ロシアは民主化した」と評価

②選挙だけでなく参加、統治構造、政治家・官僚の責任など幅広い条件を設定しているダール主義者は、「ロシアはまだ民主化途上にある」とか、「この点はひどすぎるとか、むしろ後退している」と評価し、個別事象の批判に終始

③ダール主義者の条件に加えてさらに経済的公正（分配の平等）・福祉・セフティネットなどを重視するラジカリストは、ロシア政治批判を超えてむしろ攻撃的

基準やモデルをあてはめて、ロシア政治を評価しようとしても、生産的な議論は生まれない。私たちは、「ロシア社会のある制度（分野、機能、過程、アクター）は以前はこうだったが現在はこうなっているから、ロシア社会はこのように変化した」ということをまず明らかにする必要がある、そのためにさまざまな概念、たとえば「立憲主義」といった概念を使うべきである。

¹⁰ Fish, M. Steven, "Conclusion: Democracy and Russian Politics," in Barany, Zoltan and Moser, Robert G. (eds.), *Russian Politics: Challenges of Democratization*, Cambridge, Cambridge University Press, 2001, pp. 215-251.